

2025年3月28日
南海電気鉄道株式会社

大阪府の森づくりを15年以上にわたり支援！ 日本初！自然共生サイトの支援証明を取得

南海電気鉄道株式会社（社長：岡嶋 信行）は、大阪府の「堺第7－3区 共生の森」（大阪府堺市1,091,000㎡）（以下「共生の森」）での森づくり活動を15年以上にわたり支援したことを、環境省により認定され、「自然共生サイト(注1)に係る支援証明書（試行版）」を受けました。

当社は、大阪府の生物多様性の取り組みに賛同し、2009年に大阪府と「グリーンパートナー協定」を締結し、15年以上にわたり共生の森での植樹のための苗木などの寄附(注2)および植樹・下草刈り活動に参加し、共生の森での約2万本の植樹と森林エリア64,900㎡の拡大に貢献してきました。

また、森林エリア拡大によるCO₂吸収量は年間55.5トン(注3)となり、地球温暖化対策にも貢献しています。

当社は、生物多様性保全に取り組むにより、今後も地球環境保全に貢献していきます。

(注1)自然共生サイトとは、「民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域」として国が認定した場所

(注2)株主さまからご返送いただいた株主優待6回乗車カード1枚につき苗木3本分相当額を寄附

(注3)都市公園に準じた計算式で算定。※出典：「日本国温室効果ガスインベントリ報告書 2024 年」を基に算出

環境省
Ministry of the Environment
証明書番号241-011

自然共生サイトに係る支援証明書 (試行版)

南海電気鉄道株式会社 様

支援サイト情報

サイト名称： 堺第7－3区 共生の森
サイト所在地： 大阪府堺市
サイト責任者： 大阪府

☒ 維持タイプ ☐ 回復タイプ ☐ 創出タイプ

支援内容に係る情報

支援数： 1つ ※複数支援の場合、2枚目以降に記載

支援に係る活動内容

共生の森づくり活動（植樹約2万本・保全活動・計画管理など）

インプット

金銭的支援：大阪府の「大阪府みどりの基金（共生の森づくり基金）」に2,371万円を寄附
人的支援：大阪府の「堺第7－3区 共生の森」植樹・下草刈り活動参加合計215人日

アクティビティ

約2万本の植樹・保全活動などを実施

アウトプット

金銭的支援：2009年度～2023年度の15年間
人的支援：2009年度～2023年度の7月～9月の下草刈りと2月～3月の植樹
※人的支援は、コロナ禍による植樹・下草刈り活動中止などを除く。

アウトカム

森林エリアが64,900㎡拡大
森林の樹木が約2万本増加

アウトカム

産業廃棄物最終処分場の一部に森林し
森林化
(自然共生サイトの面積3・4・8への貢献)

GBFターゲットとの関連性

GBFターゲット1・2・3への貢献

※アクティビティ及びアウトプットは実施状況に応じて変更されている。
※記載のとおりにアウトカムが達成することを保証するものではない。

環境省
Ministry of the Environment
証明書番号241-011

(別紙)

自然共生サイトに係る支援証明書 (試行版)

南海電気鉄道株式会社 様

特記事項

●大阪府との協働と活動内容・成果に係る補足

大阪府が、産業廃棄物最終処分場の一部を「堺第7－3区 共生の森」と位置づけ、府民や企業と共に森づくりを進めている。当社は、大阪府の生物多様性の取り組みに賛同し、2009年6月23日に大阪府と「グリーンパートナー協定」を締結し、2009年度以降15年以上にわたり、植樹などのための寄附金の供出及び保全活動への参加を継続して実施し、自然再生のための社会貢献に取り組んでいる。

また、森林エリア64,900㎡ 拡大によるCO₂吸収量は年間55.5トン(注)となり、地球温暖化対策にも貢献している。

(注)都市公園に準じた計算式で算定。
CO₂吸収量＝面積×単位面積当たりの苗木本数×吸収係数
単位面積当たりの苗木本数：22,350本/ha、吸収係数：1.85kg/㎡/年
※出典：「日本国温室効果ガスインベントリ報告書2024年」を基に算出

●生物多様性地域戦略への貢献

「大阪府生物多様性地域戦略」では、「生物多様性の損失を止める行動の促進」の具体的な取り組みとして、「堺第7－3区における共生の森づくり活動」が位置づけられている。

※別紙に記載の内容は申請者による任意の記載であり、環境省による詳細の審査は行われていない

共生の森の概要

共生の森は、大阪府が大阪湾ベイエリアの海を埋め立てた産業廃棄物最終処分場の一部で、府民や企業と共に森づくりを進めています。

共生の森には、一千種を超える数多くの動植物が生息し、オオタカ・チョウヒ・コミミズクなど約20種の希少種が確認されています。共生の森は、長年の保全活動が認められ、2024年10月に環境省から自然共生サイトに認定されました。



出典:大阪府 HP 共生の森(空中写真)

<https://www.pref.osaka.lg.jp/o120030/midori/midori/kyousei.html>

▼共生の森で見られる生き物



出典:大阪府 HP「共生の森の生物多様性」

https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/20302/kyouseinomori_seibututayousei_3.pdf

当社の他の生物多様性保全活動

当社は、「環境理念」を2004年に制定し、「地球環境保全」を企業の使命の1つと認識し、自然環境にやさしい社会づくりに向けて行動します。

1. なんばパークス(パークスガーデン)

パークスガーデンは、大阪なんばの複合商業施設「なんばパークス」のグランドレベルから地上9階まで段丘状に続く都市の屋上公園です。

約500種類10万株の豊富な植物とともに、季節の鳥類や昆虫が生育する都市のオアシスです。

多種多様な植物を常駐のガーデナーが365日管理し、農薬や化学肥料に頼らない「IPM管理(注4)」により、生態系の調和を保ちつつ残された生き物が繁殖できるよう取り組んでいます。剪定で出た枝や葉は粉砕機にかけてガーデン内の土壌に還すなど、廃棄物をできるだけゼロに近けるゼロエミッションにも力を入れています。

(注4) IPM管理(総合的有害生物管理)とは、病害虫の防除に際し、環境に優しい方法を優先し、農薬や化学肥料に頼らず手作業などの適切な手段を組み合わせで管理する手法のこと。

(参考)パークスガーデンHP <https://nambaparks.com/garden>



なんばパークス全景

2. なんかいの森

なんかいの森（奈良県十津川村 約5,200,000㎡）は、1977年頃からスギ・ヒノキの植林を開始し、以来、計画的な植林、施業（枝打ち・間伐）などを行っています。

適切な間伐を実施することで森を育て、森に年間500t（推定）のCO₂を吸収させ、地球温暖化防止に貢献しています。

また、ブナ林などの天然林を残すなど、CO₂の吸収だけでなく、防砂や水源保全、また生物多様性の保全などに貢献しています。



間伐ボランティア活動

3. 多奈川ビオトープ

多奈川ビオトープ（大阪府泉南郡岬町 23,900㎡）は、関西国際空港第二期事業の埋立て土砂の採取跡地であり、当社は大阪府・岬町・大阪府立環境農林水産総合研究所と「おおさか生物多様性パートナー協定」を結び、協働で自然再生活動を行なっています。2024年3月に環境省から自然共生サイトに認定されています。



多奈川ビオトープ空中写真

当社は、「昆明・モンテリオール生物多様性枠組」の30by30目標（2030年までに国土の30%以上を自然環境エリアとして保全）のための「生物多様性のための30by30アライアンス」に参加しています。



30by30

<https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance/index.html#about30by30>

南海グループは、SDGsへの取組みを強化しており、関連するニュースリリースに「SDGsの目標アイコン」を明示しています。

今回ご案内の取組みは、11番・13番・14番・15番・17番に繋がるものです。



以上